

カタカナ4拍語の類似語数表 (2)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2013-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KAWAKAMI, Masahiro メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3842

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



カタカナ4拍語の類似語数表(2)

心理学部 発達教育心理学科 川上 正浩

要旨 : Coltheart, Davelaar, Jonasson, & Besner (1977) の研究以来、多くの研究が単語認知に及ぼす neighborhood size の効果を検討してきている。こうした研究を遂行するためのデータベースとして川上 (1998) は、客観的な基準として、Macintosh 版岩波広辞苑第四版 (新村出記念財団, 1995) を設定し、この辞書にカタカナ表記で登録されているものをカタカナ表記語と見なすこととして、カタカナ4文字表記語の類似語数をデータベース化している。本研究は、より音韻的な特性を重視した実験を実施できるよう、あらためてカタカナ語の類似語数に関するデータベースを整備することを目的とする。具体的には拗音、促音、長音を含んだカタカナ表記語のうち、4拍で発音可能なカタカナ表記語 (カタカナ4拍語) に焦点を当て、類似語数を産出し、データベース化を行った。前報 (川上, 2013) では、先頭文字がア行からサ行のカタカナ4拍語について、その類似語数を報告したが、本報では、先頭文字がタ行以降のカタカナ4拍語の類似語数について報告する。

キーワード : 類似語数、カタカナ4拍語、データベース、岩波広辞苑第六版

問題

単語認知過程の解明は、人間の言語処理活動を明らかにする上で避けては通れない重要な課題である。そして単語認知モデルの多くにおいては、入力された単語と視覚的に類似する語の表象も同時に活性化されることが仮定されている。Coltheart, Davelaar, Jonasson, & Besner (1977) は、その単語に含まれる文字を一文字変更することによって作成され得る単語を neighbor (類似語) と定義し、これをカウントすることによって、各単語の neighborhood-density (N-metric) を算出した。この論文以来、単語の持つ属性の1つとして、N-metric が単語や非単語にどのような影響を及ぼすのかが検討されてきた。

こうした類似語数の効果を検討するために、日本語を材料とした実験を行うためには、刺激材料の類似語数を算出する必要が生じる。このためのデータベースとして川上 (1998) は、客観的な基準として、Macintosh 版岩波広辞苑第四版 (新村出記念財団, 1995) を設定し、この辞書にカタカナ表記で登録されているものをカタカナ表記語と見なすこととして、カタカナ4文字表記語の類似語数をデータベース化している。しかし、川上 (1998) の研究においては、データベース化に際して4文字4拍語のみを対象とし、全ての文字が直音あるいは撥音 (ン) であり、拗音、促音、長音を含ま

ないもののみをカタカナ4文字表記語として取り扱っている。

本研究は、より音韻的な特性を重視した実験を実施できるよう、あらためてカタカナ語の類似語数に関するデータベースを整備することを目的とする。具体的には拗音、促音、長音を含んだカタカナ表記語のうち、4拍で発音可能なカタカナ表記語に焦点を当て、類似語数を産出し、データベース化することを目的とする。本研究は前報 (川上, 2013) を引き継ぐものであり、前報においては、先頭文字がア行からサ行のカタカナ4拍語について既にその類似語数を報告した。本報においては、先頭文字がタ行以降のカタカナ4拍語の類似語数について報告を行う。

方法

方法については前報 (川上, 2013) の通りである。

結果と考察

先頭文字がタ行以降のカタカナ4拍語について、その正書法的類似語数を Table 1 に示した。先頭文字がア行からサ行のカタカナ4拍語については前報を参照されたい。

本研究の結果、川上 (1998) より広い範囲でカタカナ4拍語 (あるいはカタカナ4文字表記語) を刺激材

